

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成23年度 経済産業大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野 受賞	受賞者名
	日本シイエムケイ株式会社 新潟サテライト工場 (現 日本シイエムケイ株式会社 新潟工場)
	所在地
	新潟県北蒲原郡
受賞テーマ	
プリント配線板製造工場から発生する産業廃棄物の排出抑制	
1. 活動継続 あり	
ゼロエミッション 100%を維持・継続している。 廃棄物の分別を徹底し、再資源化されていることを確認（マニフェストで処理ルートを監視）している。	
2. 活動の広がり あり	
<ul style="list-style-type: none">・ 「聖籠町ごみ減量化推進協議会」へ職員派遣（2回/年）。平成24年～継続中。・ 特定非営利活動法人「ブナ友の会」主催の植林活動に参加。廃棄物の有効活用の一例として、工場から排出される木製容器18箱を植林用プランターとして提供した（平成26年9月）。	
	
木製容器の搬送	植林用プランターとして設置された木製容器
<ul style="list-style-type: none">・ 環境保全業務に対する顕著な功績が認められ、担当者が「新潟県下越地区環境保全協議会」から表彰された（平成28年6月）。	
3. 活動の進化 あり	
逆有償の産業廃棄物（有価金額よりも運搬費・処理費が上回る）扱いの切粉（プリント配線板の穴あけ時に発生する粉状の樹脂で少量の銅が混入している）を処分先の協力により、有価物に転換した。（実績：平成28年9月～。約30t/半年）。	
4. 今後の計画	
ゼロエミッション 100%維持・継続と排水処理場の水質安定化。	

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

同社は、1999年にISO14001の認証取得を目指し、本格的に工場から排出される産業廃棄物の排出抑制の取り組みを開始した。社内の環境専門部会の一つである省資源・リサイクル部会を中心とし、産廃業者の協力を得ながら廃棄物の細分別活動、社員教育活動により2005年度にはゼロエミッション率（埋立て廃棄物「ゼロ」）100%を達成した。又、定期的に省資源・リサイクル月間のポスターを掲示し、リサイクル推進活動を全社員へアピールし、社員の3Rの意識向上に努めている。

社外への展開も活発に行い、聖籠町環境展（2002年）、国際環境ビジネス展（2003年）にリサイクル推進活動を出展、環境雑誌日経エコロジーへの投稿（2006年）、この投稿が採用され、日経BP社主催の環境推進活動に関する講演及びパネルディスカッションのパネラーとして対応（2007年）、更に新潟総合テレビでリサイクル推進活動の取材を受け、テレビ放映（2008年）された。

1999年当時の産業廃棄物（特管含む）委託処理量は年間4,847tで廃プラ1,471t、工程廃液1,342t、フィルム剥離カス汚泥208tであり、この3種類で総排出量の62%以上を占めていた。廃プラはビニール系を圧縮化、細分別の徹底によるリサイクル化及び有価物への転換、インク容器の大型化及びメーカーとの通い方式に切り替え等を行った。工程廃液は15種類の廃液のうち7種類を自社処理していたが全廃液の自社処理化を目指し活動を開始した。廃液を混ぜるバランスを順次調整、又、生物処理を確立し、2010年度には1種類を残すのみとなった。フィルム剥離カス汚泥は自社で中和・脱水処理可能かを試行錯誤し、処理施設を導入し、委託処理量を大幅に削減した。（2010年度の排出量127t）

工場廃液の自社処理化による委託処分量の削減

自社処理化にあたり外部業者からの設備導入か自社案（処理コスト安価）かで検討。実験結果から生物処理が可能と判断し、取組を始めた。成功のキーポイントは以下の4点である。

- ①鉄液置換法の処理条件確立
- ②現像・剥離の廃液と混合条件の確立
- ③各廃液系統の制御連動化による水質の安定化
- ④生物処理の微生物強化成功

